

弟子の心

～キリストのゆえに、キリストのために～



弟子とは？

キリストの弟子とは、どのような人たちなのでしょう？

彼らは霊的な人間というわけではないでしょう。

有能な人間というわけでもないでしょう。

彼らは、キリストに救われました。

そして、彼らにとっては

キリストがすべてのすべてとなったのです。

どうして彼らはそうなったのでしょうか？

それは、彼らの努力によるものではありません。

彼らの能力によるものではありません。

彼らの信仰によるのでもありません。

彼らがキリストを選んだのではありません。

キリストが彼らを選んだのです。

なので、聖霊に捕らえられた彼らにとって、
キリストの弟子として生きる以外の人生など考えられないのです。

ヨハネ 15 : 16

あなたがたがわたしを選んだのではない。

わたしがあなたがたを選んだ。

どんなものも、キリストに従って生きるという彼らの情熱を冷ますことができません。環境の変化も、経済的な困難も、精神的な困難も、人からの反対も、サタンの攻撃も、彼ら自身の弱ささえも、彼らをキリストから切り離すことはできないのです。

この召命は、どのような人に与えられるのでしょうか？

それは、人の行いによるものではありません。

人の信仰の度合いによるのでもありません。

一方的な神の主権なのです。

もし、あなたがここに書かれているような弟子の心を持ちたいと切望しているなら、それは既にあなたの心が聖霊に捕えられている証拠なのです。

聖霊の語りかけを無視することなく、選ばれていることに感謝し、神を畏れ、キリストを愛し、キリストに従う道を歩んでください。

ヨハネ 13 : 26

わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。

そうすれば、わたしのいるところに、

わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、

父はその人を大切にしてくださる。

1、彼らはただキリストを愛しています

詩編 119 : 17

主はわたしに与えられた分です。

御言葉を守ることを約束します。

彼らの心は、神への愛に満ちており、へりくだって十字架の道を歩まれたキリストの心に結びついています。彼らは自分がキリストの花嫁であり、キリストを愛することが人生の目的であり、至上の喜びであり、他の事は二の次であることを知っています。

それゆえに彼らは……。

- ・キリストとの個人的な交わりを喜びます。
- ・すべての事をキリストのためにしたいと思います。彼らの行動の動機は、常にキリストを愛するためなのです。
- ・キリストが愛するものを愛し、キリストが憎むものを憎みます。
- ・キリストの名が崇められ、それを通して父なる神の栄光が光り輝くことを人生の目的とします。

2、彼らは自分を捨てます

マタイ 16 : 24

それから、弟子たちに言われた。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、
自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」

キリストの弟子となるということは、キリストに服従することを意味します。服従するためには、自分を捨てる必要があります。そしてキリストの弟子は、自分の人生のフォーカスを自分自身の満足からキリストに向かって移していくことを学びます。なぜなら、自分よりもキリストを愛したいと願うからです。

それゆえに彼らは……。

- ・ 自分を愛したいと思う肉の性質と戦います。
- ・ 自分の意見を貫きたいというプライドと戦います。
- ・ 人に認められたいという自己顕示欲と戦います。

3、彼らはキリストのように愛します

ヨハネによる福音書 13 : 34 ~ 35

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。

わたしがあなたがたを愛したように、

あなたがたも互いに愛し合いなさい。

互いに愛し合うならば、

それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、

皆知るようになる。

キリストは、自分を捨てて弟子たちを愛し、愛し抜かれました。キリストの弟子たちも同様に人を愛します。もちろん、彼らの愛は完璧ではありません。でも、彼らはへりくだり、愛し続けようと努力し、祈るのです。

それゆえに彼らは……。

- ・ 人との関係において自分の利益を求めず、相手の利益を求めようと努力します。
- ・ 自分の非を認め、謝罪することに積極的です。しかし、人に謝罪を要求することはしません。
- ・ 自分の中にある人を裁く思いと戦い、人を敬う心を持てるように祈り続けます。

4、彼らには福音宣教に対する情熱があります

テモテⅡ 4 : 2

御言葉を宣べ伝えなさい。

折が良くても悪くても励みなさい。

キリストが命を投げ出されたのは、全人類の救いのためです。そのキリストの心と結ばれているキリストの弟子は、福音宣教に並々ならぬ情熱を傾けます。この世で生かされている目的は、なによりもキリストを宣べ伝え、神の国を来たらせることであることを知っているからです。

それゆえに彼らは……。

- ・すべての行いの裏に、福音宣教のためという目的を持っています。
- ・福音宣教に対して怠けている自分を恥じ、時には自分の心と体を打ち叩いて福音のために働きます。
- ・福音宣教のゆえに、人に嘲られ、反対されたとしても、絶望せず、自分の心を神にゆだねます。

5、彼らはキリストのゆえに苦しみます

コロサイ 1 : 24

今やわたしはあなたがたのために苦しむことを喜びとし、
キリストの体である教会のために、
キリストの苦しみの欠けたところを
身をもって満たしています。

パウロは、自分の役目をよくわかっていました。キリストの十字架と復活によって福音は完成されましたが、その福音を全世界にのべ伝えるのは、さらに教会による宣教という手段が必要だったのです。それこそが、「キリストの苦しみの欠けたところ」です。キリストの弟子たちは、キリストに従うがゆえに、キリストと同じように苦しむのです。

それゆえに彼らは……。

- ・キリストのためにあえて困難に挑戦します。
- ・自分の喜びより、キリストの喜びを優先します。そして、一時的には苦しみであったとしても、それが一番の祝福の道であると知っています。
- ・すべての苦しみは主から与えられた訓練であり、最終的には主が栄光を受けてくださることを信じています。

6、彼らからまた弟子が生まれます

コリント I 11 : 1

わたしがキリストに倣う者であるように、
あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

キリストの弟子だけが、弟子を作ることができます。周りにいる兄弟姉妹は彼らの姿を模範とし、彼らの内に働かれる聖霊が、同じように兄弟姉妹にも働くからです。また、彼らも自分から弟子が生まれることに情熱を燃やし、自分と同じようにキリストに従うものが増えることを喜びます。

それゆえに彼らは……。

- ・キリストに従う志を持ったキリスト者たちにと交わり、彼らに働きかけ、その霊が燃やされることを願います。
- ・キリストに従って生きる喜びを教会に分ち合います。
- ・誰かに「キリストに従うとはどのように生きることなのですか？」と問われた場合、「わたしの様な生き方です」と答えるでしょう。

7、彼らのゴールは、この世での成功ではありません

ヘブライ 11 : 13

この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。
約束されたものを手に入れませんでした、
はるかにそれを見て喜びの声をあげ、
自分たちが地上ではよそ者であり、
仮住まいの者であることを公に言い表したのです。

この世で大きな教会を建て上げる、名の知れた伝道者になる、ベストセラーの信仰書を書き上げる……そのような名声は、彼らにとってはたいてい価値がありません。彼らの最大の望みは、天に帰った時、「忠実なしもべよ、よくやった」と愛する主に言ってもらうことだからです。

それゆえに彼らは…….

- ・すべての働きの中に、天の国につながる希望と目的を見出します。
- ・すべての自分の働きは未完に終わるものであり、キリストが完成させてくださると知っています。
- ・彼らはこの世の楽しみよりも、天の国でキリストに出会うことであることを最高の喜びとするのです。

キリストを愛しましょう。
キリストに従いましょう。
キリストのために捨てましょう。
キリストのために死にましょう。

わたしたちはキリストのものなのですから。

コリント I 6 : 20

あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。
だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

「弟子の心」 発行:下諏訪キリスト教会
<http://shimosuwachurch.net/>